

仙台市文化財調査報告書第430集

仙台市文化財調査報告書第430集

宮城県仙台市

国史跡 陸奥国分寺跡

—昭和46～50・53・54年度発掘調査報告書—

国史跡 陸奥国分寺跡

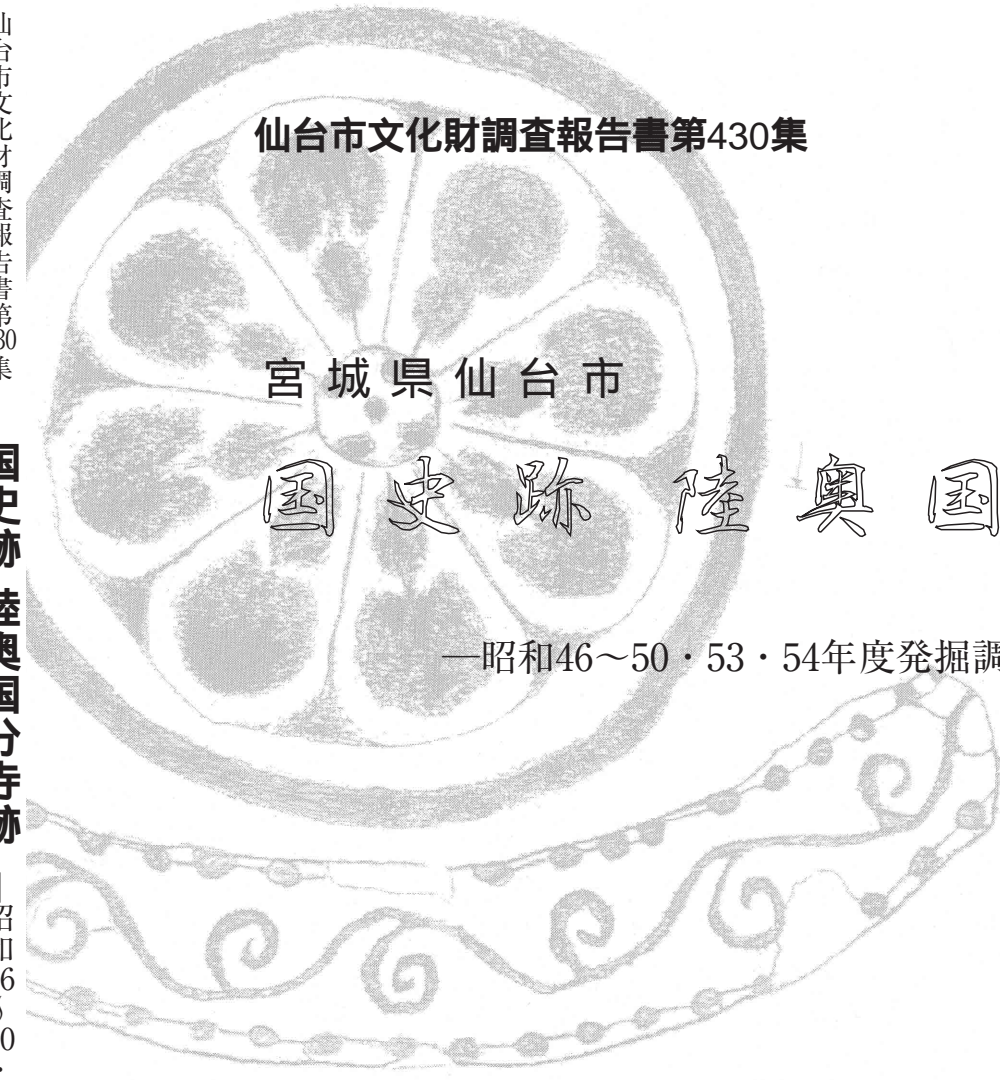
—昭和46～50・53・54年度発掘調査報告書—

二〇一四年三月

仙台市教育委員会

2014.3

仙台市教育委員会











# 序 文

仙台市の文化財保護行政につきましては、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。仙台市には現在約780ヶ所の遺跡が確認されております。これら多くの遺跡は先人たちが遺してくれた歴史遺産でありますとともに、後世に伝えていかなければならない貴重な文化遺産でもあります。

この中でも特に重要なものについては、国などから「史跡」として指定を受け、遺跡が損なわれることのないよう努めているところです。若林区木ノ下にある陸奥国分寺跡は、早くからその重要性が知られ、大正11年に寺域のほぼ全域が国の史跡として指定を受けております。

陸奥国分寺は、古代律令制下の奈良時代、天平13年（741）聖武天皇の勅願により全国60余国に建立された国分寺の中で最も北にあります。昭和30年から34年（1955～59）に行なわれた発掘調査により、800尺四方（一辺約242m方形）と考えられる伽藍の概要が明らかになりました。南の正門である南大門から、中門、金堂、講堂、僧坊と伽藍中軸線上に並ぶ堂宇に加え、寺域内東側では回廊に囲まれた七重塔があったことも確認されております。規模、内容とも当時の国分寺の様子を知る上で貴重な遺跡であることから、昭和46年（1971）以降は、史跡環境整備のための調査が行われてきました。

本報告書は昭和46年度（1971）から昭和54年度（1979）までに実施された調査のうち、これまで報告のなされてなかったものを集めて一冊とし、調査結果を報告、公開するものであります。これらの調査成果は、この史跡がこれからも市民生活の中でうるおいのある場として活用されるよう、整備の中に活かして参りたいと考えております。

本報告書が学術研究はもとより、多くの市民の皆様にも広く活用され、地域の歴史や文化財に関する理解の一助になれば幸いです。

調査当時の記録によれば、多くの皆様のご助言、ご協力をいただきながら調査が行われており、発掘調査ならびに本報告書の刊行に際しまして、ここであらためて深く感謝申し上げますとともに、今後の史跡整備に向けましても、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成26年 3月

仙台市教育委員会  
教育長 上田 昌孝

# 例 言

1. 本書は国史跡陸奥国分寺跡に関する昭和46～50・53・54年度（1971～75・78・79年度）に実施された発掘調査の内、未報告分の調査に関する発掘調査報告書である。

本書の内容はすでに公開されている現地説明会や各種発表会資料に優先する。

2. 本報告書の作成にあたっては、以下のように分担した。

本文執筆： 木村浩二

写真撮影： 石山智之

図版作成： 石山智之・木村浩二

編 集： 石山智之・木村浩二

また、遺構図・日誌等資料の集約・分類、遺物集計、実測図・拓影作成、製図・トレース・図版作成にあたっては、大友浩美、笠原裕子、鈴木由美の補助を得た。

3. 本調査に係わる出土遺物、実測図、写真等の資料は仙台市教育委員会が保管している。

# 凡 例

1. 全体平面図に示した座標系は、平面直角座標系 X（旧測地系）である。各年度の調査区平面図は各々任意の原点により作成されており、全体図の座標系に載せられないものもあったことから、表示しなかった。

2. 図中の方位については、測量基準方位が不明なものがあり、統一できなかった。多くは伽藍中軸方向（真北基準でN-5°-W）を測量南北基線としており、原図に従いこの方向を北として表示した。原図に表示のなかったものや不明確のものについては周辺遺構との関係から概ね復元したが、図中に明示しなかった。

3. 遺構の略称は使用せず、原則として原図に表記された遺構名称を用いた。遺構番号についても調査区ごとの番号である。

4. 断面図については、平面図との対応関係や基準高が不明なものがあり、土層表記についても土色帳を使用していないことから、統一表記ができなかった。これらのことから、層位については本文中での表記にとどめ、図は掲載しなかった。

5. 遺物の略号は次のとおりで、年度ごとの通しNoである。はじめの数字は西暦年号の下2桁である。

C：土師器（非ロクロ調整）

D：土師器（ロクロ調整）・赤焼土器

E：須恵器

F：丸瓦・軒丸瓦

G：平瓦・軒平瓦

H：その他の瓦

I：陶 器

K：石 器・石製品

N：金属製品

P：土製品

6. 遺物観察表の計測値は、欠損部分の推定復元が可能なものは復元値を（ ）で表記し、不可能なものは残存値の後に+を付して表記した。

7. 軒丸瓦の法量の幅については、瓦当直径と丸瓦部幅を比較し、大きい方の数値記載を基本とした。また、最大長及び瓦厚については、丸瓦部分の残存状況が良好なもののみ記載した。

8. 軒平瓦の法量については、最大幅と瓦当面長を比較し、大きい方の数値記載を基本としたが、平瓦部分の残存状況が良好なものについては併記した。また、最大長及び瓦厚については、平瓦部分の残存状況が良好なもののみ記載した。

9. 遺物写真図版の縮尺は約原寸大～1/4の不定縮尺である。

10. 平瓦凸面実測図のアミカケ部分は赤色顔料付着範囲を示している。

# 目 次

|     |                        |     |
|-----|------------------------|-----|
| 第1章 | はじめに                   | 1   |
| 第2章 | 1971・72（昭和46・47）年度発掘調査 |     |
| 1.  | 調査経過                   | 6   |
| 2.  | 発見遺構・出土遺物              | 7   |
| 第3章 | 1973（昭和48）年度発掘調査       |     |
| 1.  | 調査経過                   | 30  |
| 2.  | 発見遺構・出土遺物              | 31  |
| 第4章 | 1974（昭和49）年度発掘調査       |     |
| 1.  | 調査経過                   | 65  |
| 2.  | 発見遺構・出土遺物              | 66  |
| 第5章 | 1975（昭和50）年度発掘調査       |     |
| 1.  | 調査経過                   | 75  |
| 2.  | 発見遺構・出土遺物              | 76  |
| 第6章 | 1978（昭和53）年度発掘調査       |     |
| 1.  | 調査経過                   | 105 |
| 2.  | 発見遺構・出土遺物              | 105 |
| 第7章 | 1979（昭和54）年度発掘調査       |     |
| 1.  | 寺域西辺築地                 |     |
| (1) | 調査経過                   | 106 |
| (2) | 発見遺構・出土遺物              | 106 |
| 2.  | 伽藍地南西外側                |     |
| (1) | 調査経過                   | 108 |
| (2) | 発見遺構・出土遺物              | 109 |
| 第8章 | 参考資料                   | 111 |
| 第9章 | ま と め                  | 123 |
|     | 註・引用参考文献               |     |
|     | 抄 録                    |     |



# 插图目次

- |      |                     |      |                  |
|------|---------------------|------|------------------|
| 第1图  | 陸奥国分寺跡位置図           | 第25图 | 調査区平面図 - 74 - 2  |
| 第2图  | 調査区位置図              | 第26图 | 出土遺物拓影・実測図74 - 1 |
| 第3图  | 調査区位置図 - 72         | 第27图 | 出土遺物拓影74 - 2     |
| 第4图  | 調査区平面図 - 72         | 第28图 | 調査区位置図 - 75      |
| 第5图  | 出土遺物拓影・実測図71・72 - 1 | 第29图 | 調査区平面図 - 75 - 1  |
| 第6图  | 出土遺物拓影・実測図71・72 - 2 | 第30图 | 調査区平面図 - 75 - 2  |
| 第7图  | 出土遺物拓影・実測図71・72 - 3 | 第31图 | 出土遺物拓影・実測図75 - 1 |
| 第8图  | 出土遺物拓影・実測図71・72 - 4 | 第32图 | 出土遺物拓影・実測図75 - 2 |
| 第9图  | 出土遺物拓影71・72 - 5     | 第33图 | 出土遺物拓影・実測図75 - 3 |
| 第10图 | 調査区位置図 - 73         | 第34图 | 出土遺物拓影・実測図75 - 4 |
| 第11图 | 調査区平面図 - 73         | 第35图 | 出土遺物拓影・実測図75 - 5 |
| 第12图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 1    | 第36图 | 出土遺物実測図75 - 6    |
| 第13图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 2    | 第37图 | 調査区位置図 - 78      |
| 第14图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 3    | 第38图 | 調査区位置図 - 79 - 1  |
| 第15图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 4    | 第39图 | 調査区平面図 - 79 - 1  |
| 第16图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 5    | 第40图 | 調査区位置図 - 79 - 2  |
| 第17图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 6    | 第41图 | 調査区平面図 - 79 - 2  |
| 第18图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 7    | 第42图 | 出土遺物拓影・実測図 77・79 |
| 第19图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 8    | 第43图 | 出土遺物拓影 参考 - 1    |
| 第20图 | 出土遺物拓影・実測図73 - 9    | 第44图 | 出土遺物拓影 参考 - 2    |
| 第21图 | 出土遺物実測図73 - 10      | 第45图 | 出土遺物拓影 参考 - 3    |
| 第22图 | 出土遺物拓影73 - 11       | 第46图 | 出土遺物拓影 参考 - 4    |
| 第23图 | 調査区位置図 - 74         | 第47图 | 軒丸瓦・軒平瓦分類図       |
| 第24图 | 調査区平面図 - 74 - 1     |      |                  |

# 写真図版目次

- |              |                            |
|--------------|----------------------------|
| 写真図版 1 ~ 16  | 1971・72 (昭和46・47) 年度調査出土遺物 |
| 写真図版 17 ~ 37 | 1973 (昭和48) 年度調査出土遺物       |
| 写真図版 38 ~ 41 | 1974 (昭和49) 年度調査出土遺物       |
| 写真図版 42 ~ 61 | 1975 (昭和50) 年度調査出土遺物       |
| 写真図版 62      | 1977・79 (昭和52・54) 年度出土遺物   |
| 写真図版 63 ~ 70 | 参考資料                       |